

第16回錯視・錯聴コンテストに応募するための文書です。よろしくお願ひいたします。

氏名:森田悠一

所属:特になし

連絡先:moritayuichi(at mark)gmail.com

作品タイトル:3本レール(Railroad worker's nightmare)

以下、解説です。

『3本レール』は、ジャストロー錯視を利用して、3本ロープと呼ばれるマジックの現象を自動的に起こせるようにしたものです。おもちゃのレールの長さが、まるで魔法のように変化して見えます。

通常のジャストロー錯視は、虹のような形をした合同な図形が違う長さに見えるというものです。それをあえて本当に少しずつ長さの違う図形にしたところがポイントです。

3本のレールを上から長い順に並べると、ジャストロー錯視によってすべて同じ長さに見えます。そして3本の並び順を上下逆にすると、今度は長いものはより長く、短いものはより短く見えます。したがって、通常のジャストロー錯視のおよそ2倍の効果が得られるわけです。

先行作品を確認したところ、この実際に長さを変えておくというアイディアは、マジックメーカー「テンヨー(株)」の鈴木徹氏が考案した『さっかく定規』すでに使われていました。そちらもたいへん面白い作品ですが、『3本レール』のよいところは、3本の長さを一度に比較するようにしたところです。それによっていちばん上といちばん下の差がより際立つこととなり、錯視効果を最大限に高めることができたと思います。

通常、錯視というのは違いをいかに大きく見せるかという点に目が行きがちですが、本作品の「違いを小さく見せる方向に錯視を活用する」という発想は、さまざまなデザインにおいても役立つのではないかと思います。また、比較するものを2つから3つへと増やすことで効果を増幅させる手法は、他の錯視の研究にも応用が利くのではないかと思われます。本作品はこのような部分に、学問的意義があると考えています。

森田 悠一